

No.148

公民館だより

平成25年6月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

災害に備える

由良地区公民館長 枝川 隆 亮

私たちは、毎日ごく普通に何かが起こることを忘れたように、『平和』を満喫した生活を過ごしています。

『地震は必ず起きます』

地球の表面は岩盤からできており、陸と海のプレートに分類され、その境界付近では衝突したり一方の下に沈みこんだりしている。年月とともに「ひずみ」がたまり耐え切れなくなるとプレートの一部が破壊されて急に動きます。これが地震と考えられています。数百年から数万年間隔で発生しています。

古代では、《七〇一（大宝元）

年、丹波（丹後の事）大地震、凡海郷、蒼海となり男島女島（冠島・沓島）のみ残る。（丹後の風土記・年代記・続記）（由良の歴史年表記載）と記述され、丹後でも巨大な地震が発生していることがわかっています。

日本は巨大地震に見舞われることなく戦後の復興と神武など好景気に支えられ高度な成長を遂げて現在に至っていますが、学者は、日本列島は地震の活動期に入っていると指摘しています。

阪神淡路大震災後、岩手・宮城内陸、能登半島、新潟中越、

芸予と「阪神」以後大地震が九回も発生しています。

四月十三日には兵庫県淡路島付近を震源とする地震があり、震度六弱・マグニチュード六・三と発表されています。

一九九五年の阪神淡路大地震以降最大の震度と規模であり、気象庁が示す震源の位置や断層向きから、これまで知られている活断層では無く未知の活断層が動いた可能性がある」と学者は発表しています。

私たちの住む近畿北部には、郷村断層帯があり一九二七（昭和二）年丹後地震が発生、M七・三、五七一名もの死者を出しています。

また、兵庫県から与謝野町を経て宮津市北部に至る山田断層帯がありますが、先述の学者の説を借りると、発表されている断層帯の他に未知のものがあり、どこで大地震が起きてても不思議ではないということになります。

京都府では、二月一日、災害

や事故に備えるため、「府地域防災計画」が発表、宮津市でも「住民避難計画」を策定しました。

原発事故が起きた場合は、全市民が避難することとし、原発事故発生時の風向きにより由良地区は、西方面は福知山市へ、南方面は八幡市と避難先自治体とのルートを決めました。

また、大きな災害に遭遇していない私たちの年代、防災グッズを準備することに少し抵抗がありますが、いつ起きるかわからないのが、原発事故や地震、忘れた頃にやってくるのが災害です。

「最低でも一人三日分」を準備しなさいと言われていきます。先ず水、カセットコンロと鍋、インスタント食品など普段の食生活の延長線にあるものを考える。この機会に、防災グッズを準備しながらもう一度よく中身を考え、身の回りを点検しようではありませんか。

行事報告

主事 磯田 充亮

◎三月九日(土) 生涯学習講座

今回は元由良小学校校長 松本正先生をお迎えし、文化講演会を開催しました。松本先生は昭和三十四年～四十七年に担任教師として、又、平成二年～三年に校長として勤務され、多くの児童を育成されました。当日は「由良小学校在職中の思い出。」と在職中に調査、研究し発表された「由良の船絵馬」の見方についての説明がありました。

「在職中の思い出」は主に当時の児童の作文から、由良岳登山を始めたこと、お金や命の大切さを知ったこと、当時の生活、遊びについて、杉鉄砲を作った、破れた靴を履いていた、毛糸ほどこき、お年玉、農作業の手伝いといった内容を、また、昭和四十五年頃、映画「橋のない川」を鑑賞後、当時の社会的背景もあって、児童達の意識に変化が

あった等詳細にお話しがありました。

「由良の船絵馬」についてはプロジェクターを使って絵馬の見方を一枚一枚詳しく説明していただきました。

主な内容は

一、航海の出發にあたり無事を祈って奉納された「高王丸」航海の無事に感謝して奉納された「寶壽丸」の絵馬がある。

二、遭難しながら一命を留めた場合など途中帰港して奉納した「飛龍丸」や「寶求丸」があり、遭難の姿が描かれ、帆はほとんど降ろし、空中に御幣が空に舞い全員が合掌して一心に祈念している姿が見える。又、船が打寄せる怒涛に木の葉のように翻弄されている姿を克明に描いています。

三、船絵馬の背景に住吉神社が描かれている「住吉丸」や日の出の有様を描いた「稻荷丸」がある。

四、帆の大きさによって船の大きさが大体推定できる。二十四反で千石船となる。(二十三反で八〇〇石)

五、帆印は沖に出ている船を遠眼鏡で見ると問屋がわかるように付けられている。帆印は、棒線様のものが多く、位置を変えたり、長短をつけ、数本使う船がある。

由良には、脇の「金比羅神社」に二十五枚他の神社に十五枚奉納されていましたが、文化財産として保存する考えで、今は宮津の丹後郷土資料館に保存展示されています。先人の貴重な文化遺産です。

等の講演がありました。

参考文献 この文化講演会に配布された、松本先生作成パンフレット

◎四月二十九日(日) 昭和の日

由良岳登山

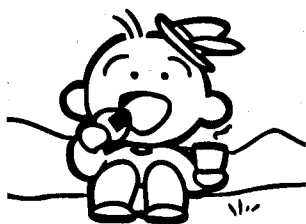
晴天の下、地元参加者が減少する中、遠方から多くの方が参加、特に小学校統合により新しく出来た栗田の友だちと一緒に

参加した小学生、中学生が多く見られ、今年は二百十三名の方に登山証明証を渡しました。

登山者は深緑の山道を登り、尾根のニガキ等の木々の若葉や足元のスミレを見、春霞に包まれた若狭湾や天の橋立を見て春を満喫しました。

参加者の中には、地元の四歳児、舞鶴から八十四歳の高齢者、遠くは四日市の方が登られました。山頂には舞鶴漆原側から登った方が多く見受けられ、マウンテンバイクで登った方もいました。

今年も先日、由良観光組合の方のご協力を得て、東西の山頂の草刈、山道の倒木の除去作業にお世話になりました。ありがとうございました。



平成二十五年度を迎え

宮津市立栗田小学校 校長 森 島 博 親

学校の周りの山々も若葉色から濃い緑色に変化し、各地では田植えも無事に終わり、少しずつですが初夏の装いを感じる季節となりました。一年をとおして、最も活動しやすく、過ごしやすい時期を迎えました。由良地区の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成二十五年度は、由良地区の児童三十名と、栗田地区の児童九十名を合わせた全校児童百二十名と教職員十九名で「新生栗田小学校」として新たなスタートを切りました。

新学期を迎え、由良地区の児童はスクールバスでの通学となりました。乗車時刻には集合場所へ集まらなければならないという負担もあるでしょうが、子どもの自立(成長)という視点で考えま

すと、朝、定刻に起き、身支度や朝食を済ませて集合場所へ向かうという生活は、規則正しい生活習慣を身に付けるうえで、良い機会と捉えることができます。

学校に到着すると、みんな運動手さんに「有難うございました。」と気持ちの良いお礼を言いつて降ってきます。礼儀正しくしっかりと挨拶ができることに感心しています。

四月当初は、少し緊張した様子も見られましたが、今では、随分前から一緒に生活していたのではないかと感じるほど、みんな仲良く過ごしています。また、授業でも積極的に発表したり、活動したりして、頑張っています。そして、運動会などの取組をおおして、友達関係が学年を越えた「つながり」へと広がっています。由良地

区の児童は、新しい友達と関わりながら、楽しく学校生活を送っています。

この二十五年度を迎えるにあたりまして、由良地区の皆様におかれましては、学校再編につきまして熱心なご討議や取組をお世話になりましたこと、厚くお礼を申し上げます。学校としましても、昨年度は両校の児童の関わりや繋がりを第一に考え、各学年での効果的な交流学习を積極的に行い、全てを公開授業とさせていたいただき、両地区の保護者・地域の皆様に児童の交流の様子を参観していただきました。また、両校PTAにおかれましては、合同PTA本部役員会を開催し、事業内容や組織体制の確認並びに本部役員及び学級委員の選出の在り方を検討していただきました。紙面をおかりしまして、厚くお礼申し上げます。

今年度は統合初年度にあたり「つながり」をテーマとし、

- ①「児童同士の繋がりに」
- ②「保護者同士の繋がりに」
- ③「学校と保護者・地域との繋がりに」という三つの視点を持ち、学校運営を推進したいと考えています。

さらに、今年度の本校の教育目標を「ふるさとに誇りを持ち、自ら学び、たくましく生きる子の育成」とし、「知・徳・体」と「郷土愛」を持った調和のとれた児童の育成に努めてまいりたいと思えます。その新たな一歩として保護者や地域の皆様との温かい繋がりが深まるように学校としても努めてまいりたいと思えます。

そして、児童が生き生きと学び、生活する活気あふれる学校づくりに向け、全教職員が一丸となって指導にあたる決意です。本年度の本校の教育活動へのご理解・ご支援をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

由良の将来を考えて

由良自治連合会 会長 升 田 榮 一

今年度から前会長中西洋一氏の後を受けまして、由良自治連合会会長の大役を受ける事となり、身の引き締まる思いを感じています。

地区の皆様方の協力を得て一生懸命努めさせて頂きますので、よろしくお願い致します。

昨年度までの二・三年間を振り返りますと、由良地区における将来を、左右する大きな転機がありました。百四十年の小学校の歴史に終止符を打つこととなり、学校統合問題の難題に携わって頂いた方々の、労をねぎらいたいと思います。

時を置くことなく、次には小学校跡地利用の問題でも、地区民からの声の中にも、急がずにじっくり考え、将来をよく考えながら、地区の為に成る様にと

の、活用について提案を頂きましたが、今回の決断は特別養護老人ホーム建設への理解を得られ、皆様方には苦渋の決断をいただきましたことに感謝申し上げます。

将来に渡り地区の皆様方が、決断頂いた事を、長い目で見て頂き、今回の決断がよい結果が出るべく、皆様方の思いを肝に銘じ、これからの新しい由良を作って行く為の、足掛かりとして、各自治会を初めとして、各種団体・各グループ及び由良を考える方々が一丸と成って、将来の由良づくりにご協力をお願い申し上げます。

さて、由良の将来を考えると、宮津市が計画している宮津ビジョン二〇一一年に示されています策定と同様に、地域経済力

を高める為に「自立循環型経済

社会構造への転換戦略」といった事と、人口減少、過疎地に歯止めを考える「定住促進戦略」の長期計画の策定を掲げ進めている二つの基本理念は、由良地区に於いて同様であります。

先ず、自立経済へ向け、由良の海・山・川の風光明媚な自然を活かした、観光地の産業、集客力アップや、地域資源としての活用できる物の発掘、さらに商品価値を高められる、ものづくりを進めていくことに、つながる雇用促進維持確保・拡大、などUターン・Iターン受け入れ促進等々に、宮津市からの由良地区内にも地域発展への計画に目を向けて頂いています。その事が前に進められるかは、地域の皆様方の力が発揮できなくては、前に進められることはなく、これからの由良を生かすも、沈滞の一途の道を進むかは、地域力にかかってくると思いま

す。

また、平成二十七年三月オープン予定の特別養護老人ホーム建設に伴い、集客効果を期待したいと思っております。又由良地区公民館が発刊した丹後由良の史跡・由良の歴史年表の生かせるポイントや、由良千軒長者の館・安寿足湯を由良活性化の一端で頑張って運営を頂き、今後への広がりへの足掛かりを作っていたいただいていることを生かし、近隣地区からもマイカーや北近畿丹後鉄道の「あかまつ」「あおまつ」などを多利用に利用いただき、再び訪れるお客様がある由良地区の将来を目指し、集客力のある丹後由良へ向け進もうではありませんか。

一方、高齢化が進む中、定住促進を目指すべく諸施策。山・川・海があり自然豊富な地域の、中心地に開設される特別養護老人ホーム建設を期に、「健康まちづくり」をめざして、社会教

育活用である小学校グラウンド施設や、体育館施設に休園中の幼稚園施設の有効活用を皆様方からの意見を聞き「健康づくりエリア」としての利用を考えていきたいものです。

若い人たちに住みよいまちづくりを行い、子育て・教育環境も少子化に入り、これからますます地域上げてのサポートも必要な時期でないでしょうか、四月から栗田小学校への通学となり、子供たちも由良から離れて不安な毎日が続く中、地域の皆様で自分のあいだあたたくく見守っていただきますようお願いいたします。

少子高齢化が全国的に進む中、私たちが由良地区で今後何をして行けば、活性化につながっていくか、皆様がすでに感じておられると思います。そのような中での今後の取り組みを、地域の皆様に知恵・アイデアを出していただき、一步一步、前

に進めていく様に、活動の輪を大切に広めて、今後由良地区民上げての計画を立て、たとえば「由良再生ビジョン」の策定を立て、あせらずに皆さんと共に、進めて行こうでは有りませんか。

最後になりましたが、昨年度までの間に由良を左右する大切な問題に対して、地区の皆様方への報告・連絡・相談等に関しましての、お知らせが遅くなつたことや、結果報告的なことなどに対しまして、様々な教訓を今後の活動に生かして参りますので、よろしく願います。

又新しい年度をスタートさせました由良自治連合会の活動へご協力・ご支援賜りますようによろしく願います。就任にあたりましてのご挨拶にかえさせて頂きます。

由良地区の児童達

栗田小学校PTA協力委員 上羽 貴志

由良地区の皆様には日頃より小学校児童を温かく見守って頂きありがとうございます。また登下校時には、由良子供安全見守り隊の皆様を中心に交通安全をお世話頂きまして、本当にありがとうございます。すでに地区の皆様もご存知の通り、今年度から由良小学校と栗田小学校とが統合され、由良地区の児童達は栗田小学校へ通学しています。今までは小学校が近くにあり、徒歩での通学でしたが、現在

はスクールバスで通学しています。学校が変わり通学方法が変わり少し不安な面もありましたが皆んな元気に頑張っています。スクールバス利用に当り児童の通学路が変わっています。登下校時には児童の安全に對して、地域の皆様のさらなる御協力をよろしくお願いいたします。私達保護者も地域の皆様からの様々な意見やご指導をいただきまして、一緒になって由良地区児童達の安全と成長を見守っていききたいと思っております。

最後になりましたが、小学校が統合になり栗田地区に移りました関係で小学校行事の中心が栗田という事になります。又由良のよい風土を利用した行事も残りますので、ご不便な面もあるかと存じますが児童達の頑張りを見に来ていただけるとありがたいです。これからも今まで同様PTA活動へのご理解とご協力をお願い致します。

校歌に想う

栗田中学校

体育後援会会長
PTA副会長

森田耕二

樹々の緑が目には快い季節となりました。

日頃より地区の皆様には、栗田中学校PTA活動に対しご理解ご協力を頂き厚くお礼申し上げます。この度「体育後援会賛助会員」募集のお願いをしましたところ、多くの方にご賛同いただき多額のご支援を賜りました。更には年二回の資源回収においてもご協力いただいております。重ねてお礼申し上げます。収益は生徒たちの体育振興に有効活用させていただきます。

PTA会員数の減少を理由に、昨年度から役員は体育後援会役員を兼務しております。更には来年度には由良地区選出の役員一名を減じ、八名体制から七名体制に組織の改編を行うことが決定されています。

そのような中、四月十日には

生駒宮津市教育委員長様はじめ多数のご来賓の方のご臨席を賜り、「平成二十五年入学式」が挙行されました。新入生・在校生とも非常に落ち着いた厳粛な雰囲気の中、開式に続き国歌斉唱、宮津市歌斉唱に続き斉唱された栗田中学校校歌。自然豊かな地域性と中学生たる若々しさ、誠実さ、健やかな成長への期待感などが歌詞に盛り込まれ、軽快なメロディーにのせた素晴らしい校歌だと再認識しました。

一栗田湾

さわやかにひらけるところ
青潮は みなぎありふれ
白雲は はるかにたびく
あゝ若い生命の輝き満ちて
理想を仰ぎ 希望に燃えて
はばたくよ我等栗田中学生

二由良ヶ岳

おおからのそびゆるところ
朝光はこの里照らし
夕霧は静かに流れる
あゝ若い心の花とかおりて
心理を求め 平和を願ひ
寄りあうよ我等栗田中学生

(作詞) 小寺政太郎
(作曲) 平井 善治

学校の再編計画に伴い、母校由良小学校の校歌を歌う機会が無くなってしまう淋しい思いも重なり、中学卒業後三十年以上を経て以前よりも増して大きな声で校歌を歌っている自分がいることに気が付きました。在校生には、この素晴らしい歌詞の意味を理解するとともに中学生らしい言動を身に着け、何十年たっても母校の校歌が大きな声で歌える「愛校心」を育てて欲しいものです。

そして、もう一つ伝えたいことがあります。高校時代に陸上競技をしていたことから、「目標」に確実にゴールするためには、

ペース配分を考えながら慎重に進むべきだとの考えが常に私にはありました。しかし、年齢を重ねるごとに考えが変わり、今は初めから「がむしゃらに飛ばせばいい」という考えの方が先行しています。「失敗」を恐れることはありません。その時は同じことを繰り返さないように練習を重ねれば良いのです。「結果」にも増してその「過程」が人生においても重要なことなのです。彼らの特権は「若さ」なのですから。

本年度においても「丹後プロック中学校駅伝競走大会」及び「京都府中学校駅伝競走大会」がそれぞれ十月と十一月に田井地区の京都府立青少年海洋センター周辺で開催されます。地元開催とあって、クラブ活動に加えて、長距離をはじめとして陸上競技の練習にも多くの生徒が参加し挑戦しています。地域の皆様のご声援を心からお願ひいたします。

就任のごあいさつ

由良子供会連絡協議会 会長 中西義朗

日ごろは子供会の活動に、暖かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、由良子供会連絡協議会の会長を務めさせていただくことになりました。当協議会に對しましては、これまで浜野路子供会の役員という立場で参加させていだいておりましたが、会長という事で、気持ち新たに職務をまっとうしたいと思ひます。

今年是由良の子供たちにとっては大きな変化の年となりました。四月から小学生と幼稚園児が栗田小学校、栗田幼稚園にそれぞれ通い始めました。これまでは父兄や地域の皆さんの目の届く中で学校・幼稚園生活を送っていましたが、新たな環境の下、また通学もスクールバス

という誰もが初めての交通手段で頑張つて通つています。

そのような中、地域の皆さんにはスクールバスの停留所までの往復を見守つていただいております。大変ありがたく思つております。子供たちは地域の皆さんの顔を毎日見ることで、安心して通つています。今後、父兄からの要望も聞きながら、より安全にそしてより安心して子供たちが通えるよう、子供会としてできることをしていきたいと考えています。

子供に話を聞くと、新たな環境に對し親が心配するほど不安に思つていないのかなと感じます。栗田の子供たちと一緒に学び遊ぶことで、新しい友達ができることを嬉しく思つているようです。由良という小さな地域

の中から、これまでより少し早く大きな世界に飛び出していく、たくさんの刺激を受けながら成長していける環境ができたことを、親の一人として感謝しています。

さて、当協議会の行事につきましては、五月十九日(日)に恒例の親子遠足を実施。今回も全地区合同で行い、親子約八十人が大阪のひらかたパークを満喫してきました。親子で共有する時間を持つて、また子供たちにとってはたくさんの友達と遊園地で一緒に楽しむことができ、良い思い出になりました。今後、も当協議会また各地区単位での行事を年間を通じて行いますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

終わりに、子供たちの成長の過程で親から学ぶこと、学校から学ぶことはたくさんあり大切なことですが、地域の皆さんから学ぶことも非常に重要です。

子供たちが健やかに成長できるよう、時には叱咤激励し、見守り続けていただきますよう重ねてお願い申し上げます。



通学バス

川柳

坂本妙子

欲もなぐ 支流に余生 預けてる

名刺より 顔が物云う 田舎道

黑白を 暈して此の世 うまく生き

短歌

年長けて若く見せたく 想ひしが

鏡はうそをつけぬ悲しさ

萌えいでし若葉に虫の 這いゆきて

午後のひととき光がゆらぐ

振り返る吾が足跡に 寄り添ひて

杖のたしかな跡たのもしく

短歌

大森美智子

旅の思い出

乾杯のオリオリビールもなめらかに

五姉妹揃う旅の幸せ

だみ声の遊覧案内も面白く

マジグローブの林続け

幼な子のように星砂探しおり

竹富島の青き浜辺に

丸焼きの子豚をのせし銀の皿に

お祈りをして頂くべきか

空港にサリ―纏いし貴婦人の

黒き瞳にわれは魅せらる

サイパンの上空にての機肉食

この下に散りし兵士ありしか

宮津市教育委員会 平成二十四年度人権文集

みやづの子 (第十九集) から転記

友達がいてよかった

由良小学校 五年

上羽省吾

ぼくは、友達がいてよかったと思います。なぜかというと、ぼくが、一人でさみしかった時に、「いっしょに、遊ぼう。」

と言ってくれてうれしかったからです。

学校で休み時間になれば、みんなといっしょになかよく遊べし、こまったことがあったら相談のつてくれるし、勉強もわからない所があったら教えてくれるからです。

今、ぼくの由良小学校には、一人で、さみしそうにしている友達は、いません。

だけど、もしさみしそうにしている友達がいたらぼくは、声をか

けていっしょに仲間に入れてあげたいです。

「勇気を出して。」

由良小学校 五年

小林優暉

みんなの周りには、つらい、苦しい、悲しいそんな思いをしている人はいませんか、

その代表がいじめです。今だけではなく昔にもあったようです。そして、いつもつらい思いをする人がいます。

ぼくは、いじめにあったことは、ありませんし、いじめをしたこともありません。

いじめている人は、おもしろがつて、じょうだんでやっている人が多くいます。でもぼくには分

かりません。

なぜそんなことをするのか、人をいじめることのどこがおもしろいのでしょうか。みんなで遊んだりおもしろいことを他で見つけたらいいと思います。

そして、いじ悪をしている人も、あとでできずつくと思います。「あんなことをしなければ良かった。」と思う日が来ると思います。

だからいじめは絶対やってはいけません。

ところで、みなさんは、いじめにあっている人を助けたことはありますか。

もしかしたら、

「自分もされたらいやだから、声はかけないでおこう。」

「わかっているもいじめはやめようと言いつらいな。」

そんな理由で、いじめを止めた、いじめられている人を助けたことがない人もいます。あなたの一言でいじめを止められると思います。

だから勇気を出して言ってみ

ましよう。

「いじめはやめよう。」
「ぼくがいるから大丈夫。」
って。

平成24年度 宮津市人権標語入賞作品

うれしいな ともだちいっぱい できちゃった (小学1年生)

やさしさは わたしにできる おくりもの (小学4年生)

あなたから 手を差し出せば つながる輪 (中学2年生)

酒

小西 衛

ヨッパライの李白^{りはく}先生(中国、唐時代^{たう}の詩人^{しじん})は、自分家^{じぶんか}の庭先にある池に、美しい満月が浮かんで見るのを見て。あまりにも美しいので、それを両手で抄^{すく}おうとして、溺^{おぼ}れて死んじやいました。おわかりですか。これが酒飲みの『気持ち』なんです。

ところで、お酒は平安時代の昔からずうっと男性が飲むものになっていきます。女性で酒を飲む人は、極めて少ないのです。これは、酒を生理的に男性が好むのか。あるいは単に習慣上からくるものであるのか。僕は習慣上からくるものであると考えられています。みなさんは、どのように考えますか。

女性は洋菓子では「不二家・タカラブネ」のいちごショートケーキ、「宮津ミツプル」のバナナ・パフエ、「東京・原宿、

歌手・さだまさし経営」のクレール・丹後由良」スイーツなど、好きな物が多彩にありますネ。(照・笑) 和菓子では、最中・まんじゅう・あんころ餅・団子・ぜんざいが好きですよネ。男性

はといいますと、甘い物をそんなに嫌いだはないのですが、とにかく女性ほど好きではない人が多いのです。これはどのような原因にもとづくのであるのか。考えてみると。ケーキやあんころ餅など、甘い菓子を嫌いだという人に、お酒を飲む人が多くいます。それに反して、お酒を飲まない人は、ソフトクリームなどを好んで、ほうばっている傾向があると思っっています。そうして、ちょっとひねって考えると、女性が甘い菓子を好きなのは、お酒を飲みたくて、飲みたくて堪^たらないのに、ワザ

と飲まないようにしているのではないでしょう。それに男性が逆に甘い菓子に手を出さないのは、酒を飲みたい、飲みたいがためではないのでしょうか。みなさんは、どのように考えますか。

お酒と酔物の物、鳥の空揚げとは、良く調和してとつても美しいですよ。この事は、世間一般に知られていることです。ケーキやあんころ餅を肴^{さかな}に酒は飲めないですよ。ケーキとは調和しにくいと思うのです。お酒好みの人でも、いったんお酒をやめると「お汁粉^{しることう}党」に変わることがよくありますでしょ。母がこのケースですね。

やはり女性は、お酒を飲みたなくても、習慣的に世間^{せけん}を気にしながら辛抱しているのです、甘い菓子をパクパクほうばっているのに違いない。(笑)(僕の酒論) ところで、僕がはじめて酒を飲みだしたのは、高橋様方^{たかはしさまかた}の下宿人として暮らしているときで

した。明日は経済学史の試験だというので、アダム・スミス、カール・マルクス、メイナード・ケインズ、アーヴィング・シンペーターなどの有名な経済学者の事が書いてある、授業のノート^{ノート}を友人から借りてコピーをして、それを精一杯読むのですが、少しも分からない。まったく分からん。(昨日。このような作文を書いてるので、それに合わせてノート(コピー)を読んでみたら、「バファリン」と「パンシロンG」を飲んでしまった。現在^{いま}もゾクゾクするほど分かりませんでしたよ) 困ったと思ひ悩んでいる時、親友が二階からドタドタ降りて来て「コニシ君、酒を飲みに行かないか」というから、すぐに下^げ駄^たをはいて下宿を飛び出してしまつちやつた。いつもいく(東京)高田寺南口駅前^{たかだてらまに}の居酒屋に行つて、剣先^{けんさき}スルメ、カレイ塩焼き、それに野菜のつけもの、ラッキョ、豆腐をつまみに『日

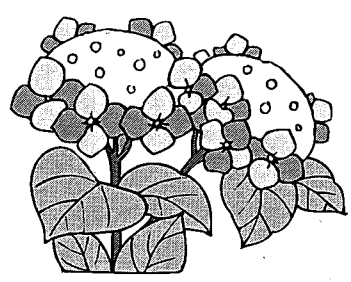
本盛』と『ホッピー』を飲んだ。二十一才だった僕は、コップ二杯とグラス二杯ずつだけと決めていたのです。が、しかし、しかしですよ、この日は、コップ四杯、グラス四杯も傾けてしまったのでした。なぜなら、この勢いで下宿に帰って、『経済』を勉強しようという意気込みがあったからです。ところが、ところどころです。下宿手前の公園から足が地につかなくなると、作家・村上春樹の小説『ノルウェイの森』にでてくる。『小熊のプーサンが酒飲んでピース』みたいな、ホントいい気分になってきたのです。しかしそれも束の間で、下宿に帰って来た時には、もはや酔がまわって、しかも、しかもですよ、今度は苦しくてマジ死にそうでしたよ(笑)。試験の準備などは、思いもつかぬほど忘れていて、その夜はそれきり寝てしまいましたよ。

すると翌日の試験には、満点一〇〇のところ、十二点もらってしまつた。翌週の講義の時間に先生は、「こんな例は、あまり聞いたことがない」と。学生五〇〇人の前で、精一杯、顔を歪めて怒っていましたよ。学生達はケラケラ笑ってましたつケ。酒も悪いが先生もちよつとだけ悪いや。(酒での最初の失敗談)

※この二つの文章(起・承・転・結を二度書く)を橋渡しの作文として書いてまいりました。が、「やつとのこと」でステージ(舞台)の上(結論)に立つて来たようです。皆さま方は、この前半の文章(『僕の酒論』)について、『異論』・『反論』が多くある事が想像できます。なぜなら、文章を書き終って、すぐに、僕の小論(考え方)に対しての聞き取りを、少ないですけども(舞鶴市の友人・知人を合わせて)三十五・六名(目標は一〇〇人だった)の方々に

訂正とお詫び

「公民館だより」No147 P13の小西 衛氏の表題が「さようなら由良小学校」となっていますが、正しくは「僕の夢・僕の道」です。訂正してお詫びいたします。



作文もなんとか、かんとか無事に終つたようだし。こちらで皆さまのご機嫌を伺いながら、無礼講で『まあ一杯どうですか。』

山椒大夫外伝(1)

—千年超の伝承— 鷗外「山椒大夫」

京都丹後学会会長
丹後ふるさと観光大使 坂本与一郎

テレビの時代、山椒大夫の物語が、テレビドラマ化されないだろうか。テレビ界の製作者や演出者が、どんなドラマを見せられるか期待は大きいと思うのだが。

千年を超える伝唱力。この伝承が歴史の中に埋没することなく、よみがえってくる生命力はどこにあるのだろうか。日本人が持ちえた中世の、全てが始原的な状況下での家族愛の最初のドラマとっていいのではないだろうか。

千年を超える今日、中世に提起されたこの問題は、現代にリアルに、公私にグローバルに存在しているのである。

溝口健二(一九五六年没、

五十八歳)映画監督の映画「山

椒大夫」(一九五四年、東宝)は、

鷗外山椒大夫がベースである。

「溝口は、女の自己犠牲と男の

野心というメロドラマを採用す

るとともに、これを徹底して憎

んだ、ともあれそこから『山椒

大夫』のように、民族学的想像

力に裏打ちされた力強い作品が

生まれるのだから、映画という

のは不思議な力に満ちているも

のである。」

(四方田犬彦稿「二十世紀の古

典溝口健二」朝日新聞平成十年

七月十日付より)

大正四年(一九一五年)一月

に、森鷗外の「山椒大夫」は

「中央公論」に発表された。鷗

外、五十三歳。この後、同じ年

の十一月、彼は陸軍事務次官に、軍医総監の辞意を表明している。

時代は、日露戦争に勝利。

そして明治天皇の崩御によっ

て、明治四五年が大正元年

(一九一一年)と変る。九月大

葬の日、乃木大将夫妻殉死と続

く。

この年、彼は初めての歴史小

説「興津弥五右衛門(おきつや

ごえもん)の遺言」を中央公論

に発表している。(森鷗外著「山

椒大夫」新潮文庫刊参照)

鷗外が山椒大夫の地、丹後由

良を訪れたかどうかは不明であ

る。この地の由良川河口に鉄道

架橋(約五〇〇m)がされるの

が大正一三年以降で、簡単に入

れる状況ではなかったである

う。だが、彼の立場からすれば

京都あたりへは、ひんぱんに通

過や滞在したであろうから丹後

入りの旅が出来る可能性は、充

分あったはずである。

鷗外と丹後の接点が、彼の最

初の歴史小説「興津弥五右衛門の遺言」ということになるだろうか。

この難解な短編は、戦国期の

丹後一三万石から、肥後熊本

五十四万石へ移封策進していく細

川三代(幽斎・忠興・忠利)に

つかえる家臣数代の波乱の内容

である。(京都丹後学講座「細

川丹後軍団、決戦関ヶ原」松

井康之と丹後水軍」参照)

同じ日本海側に位置する石見

国津和野藩主亀井家の御典医の

家系に、生を受けた(一八六二

年)彼の関心領域にあったのか

もしれない。

この作品から三年後、「山椒

大夫」は発表された。歴史小説

という世間の評に、彼は「その

つもりはなかった」と云ったと

いうから、新しい時代感覚で鷗

外「山椒大夫」に、接すべきな

のかも知れない。

『鷗外森林太郎』の上に君臨

するあらゆる反抗的なもの、権

威的なもの、陸軍その他の支配

官僚機構に対する鴉外自身の密(ひそ)かな反抗であったと解釈されないこともない。鴉外はひよっとすると日露役後の論功行賞に対して、陸軍の自己に対する処遇に対して深い不満を懐(いだ)いていたのではあるまいか。私はこの疑いを払拭(ふっしょく)することが出来ない。

ところでこの反抗は、それとは正反対のいわば運命の甘受、肯定という人生態度がいつも加わって、鴉外の作品世界は微妙な綾(あや)を作り出すのである。これがもう一本の赤い糸、すなわち自己没却、自己否定、秩序への完全な服従、権威に対する全幅の肯定、ある意味での「運命への愛」の線である。そしてまたこれが『興津弥五右衛門の遺書』『護持院原の敵討』『山椒大夫』に共通する理念的な主題である。この主題を最も簡潔に表現しているのは『山椒大夫』の厨子王(ずしおう)の言葉「そうですね。姉さんきょう

仰(おっし)やる事は、まるで神様か仏様が仰(おん)やるようです。私は考(か)を極(き)めました。なんでも姉さんの仰(おん)やる通(とお)にします。」であろう。我(われ)を立てない、異(い)を唱(な)えない、運命にあるいは既成(きせい)の道徳(だうとく)に秩序(じつじ)に全身全霊(ぜんしんぜんれい)を投げかけて、些(いささ)かもそれを怪(あや)しもうとはしない態度である。

鴉外の歴史小説の第一作『興津弥五右衛門の遺言』の主人公は殉死(じゆんじ)ということを自明(じめい)当然(たうぜん)のこととして、殆(たいてい)んど欣然(きんぜん)「きんぜん」として死(し)に赴(む)くし、『護持院原の敵討』の主要人物(しゆやくじゆうぶつ)のひとり、山本九郎右衛門(やまもとくわんご)もまたそれである。「よく聴(き)けよ。それは武運(ぶいん)が拙(ちよ)つたな)くて、神にも仏(ぶつ)にも見放(みはな)されたら、お前の云(い)う通(とお)だろう。人間(にんげん)はそういうものでない。腰(こし)が起(た)てば歩いて捜(たず)ねず。病氣(びやうき)になれば寝(ね)ていて待つ。神仏(かみぶつ)の加護(かご)があれば敵(てき)にはいつか逢(あ)い合わせる。歩いて行き合(い)うかも知(し)れるが、寝(ね)て

いる所(ところ)へ来るかも知(し)れぬ」という九郎右衛門(くわんご)もそれである。そして厨子王(ずしおう)も九郎右衛門(くわんご)も「神仏(かみぶつ)の加護(かご)によって」遂(つい)にその望(のぞ)みを遂(つい)げるのである。

恐(おそ)らく鴉外(あから)はこの系列(けいれい)の作品(さくひん)を気分(きぶん)よく書いたであろう。それにまたいわゆる歴史小説(れきしせうせき)では、鴉外(あから)が幾度(いくど)か苦汁(くじゆ)「断稿(だんこう)、未完成(みけい)、尻切(しりき)れとんぼ」を飲(の)まされたいわゆる現代(げんたい)ものに見(み)られるような高飛車(たかひぐるま)な啓蒙(けいもう)「けいもう)的(てき)・教育(きやういく)的(てき)姿勢(しせい)が見(み)られない。彼は気質(きしつ)的に明治(めいし)時代(じだい)生(な)れ残(のこ)りの「武士(ぶし)」であつたから。その彼(かれ)はしかし同時に、自然(じぜん)科学(がく)を学(ま)び、『Revue des Deux Mondes』の主筆(しゆひん)をしていた旧教徒(きうきやうと) Brunetiere が、科学(がく)の破産(はさん)を説(と)いてから、幾多(いくた)の歳(さい)月(げつ)を閲(げん)「けみ)しても、科学(がく)はなかなか破産(はさん)しない。凡(すべ)ての人為(にんぎ)のもの無常(むじやう)の中で、最も大(お)きな未来(みらい)を有(あ)しているもの一つは、やはり科学(がく)である」(『妄想(まうそう)』)と書く人間(にんげん)でも

あつた。(高橋義孝(たかはしぎこう)氏(し)後評(ごへい)「山椒大夫(さんしょうだふ)」新潮(しんせう)文庫(ぶんこ)刊(かん)より)

いま一つ鴉外(あから)には、与謝野鉄幹(よせのてつざん)「加悦(かえつ)出身(しゆしん)」という丹後(たんご)の人(ひと)との交遊(かうゆう)がある。彼の年譜(ねんぷ)には、明治(めいし)四(よ)〇(じゅう)年(ねん) (一九〇七(にゅうじゅうしち)年(ねん))四十五(しご)歳(さい)三月(さんげつ)、与謝野(よせの)寛(かん)、伊藤(いとう)左千夫(さぢんぷ)、佐々木(ささき)信綱(のぶあき)と「観潮楼(くわんせうろう)歌会(かかい)」を開(ひら)くとある。これ以前(いぜん)から交遊(かうゆう)があり、少なからず影響(えいぎやう)を受けていたであろう。(観潮楼(くわんせうろう)とは、鴉外(あから)の住(す)まいであり、当(た)時はこの高台(たかだい)から海(うみ)が見(み)えたという。現在(げんざい)は図書館(としよかん)になつている、文京区(ぶんきやうく)立鴉外(たつあから)記念(きねん)本郷(ほんきやう)図書館(としよかん)、〒(〒)一一三(いちじゅうさん)・〇〇二(じゅうに) 文京区(ぶんきやうく)千駄木(せんだぎ)一(いち)・二三(にじさん)四(よ)、電話(でんわ)〇三(さん)・三八(さん)三(さん)・二〇七(にじゅうしち)〇) ちなみに新潮(しんせう)文庫(ぶんこ)の「山椒(さんしょう)大夫(だふ)」は昭和(しやうわ)四十三(しじゅうさん)年(ねん)に発行(はつぎやう)された平成(へいせい)十六(じゅうろく)年(ねん)五月(ごご)の版(ばん)は七十四(しじゅうし)版(ばん)になつている。版元(ばんげん)に問(と)い合せると文庫本(ぶんこぼん)だけでほぼ一六六(いちむそく)万(まん)冊(さく)出庫(しゅとく)しているというこゝろから、他のメデイア浸透(しんたう)力(りき)を考(か)えらるとはかりしれない。

着任のご挨拶

由良駐在所 小林 敬 互

平成二十五年四月一日付で宮津警察署由良駐在所に着任致しました小林敬互と申します。

この度、公民館だよりに寄稿させて頂く機会を賜りましたので、この場をお借りして着任のご挨拶を申し上げますとともに、由良駐在所からのご連絡事項を述べさせて頂きます。

まず、簡単に自己紹介を致します。

私は京都市出身で、民間企業での勤務を経て、二十八歳で京都府警察官を拝命しました。

前任署は、京都市西京区を管轄する西京警察署です。

京都出身ながら、宮津市をはじめ、京都府北部にはこれまで馴染みがなく、春の人事異動で宮津警察署、しかも経験したことのない駐在所勤務との内示を受け、正直申し上げて、不安な

気持ちを抱きながら着任致しました。

しかし、由良地区の皆様の温かく親切な心に日々触れるに従い、その不安な気持ちも和らぎ、皆様のお蔭で、何の憂いもなく職務に集中することが出来ています。

由良駐在所員として、由良地区における事件・事故の徹底抑止を目指し、安全で安心なまちづくりに貢献できるよう、今後とも職務に精励する所存でございます。

それでは、由良駐在所からのご連絡事項について述べさせて頂きます。

まず一点目は、「振り込め詐欺等の特殊詐欺の被害防止」についてです。

オレオレ詐欺をはじめとする振り込め詐欺や金融商品の取引

名目の詐欺等の手口は、いわゆる「特殊詐欺」と呼ばれていますが、平成二十四年の京都府下の特殊詐欺の認知件数は八一件

で、その内、宮津警察署管内の認知件数は五件、被害総額は約三一五〇万円にも上ります。

また、今年の一月から三月まで、京都府下の認知件数は三一件（宮津警察署管内は〇件）で、被害総額は約一億四五八〇万円と、いずれも前年対比を上回っています。

警察による取り締まりや金融機関等を含めた抑止対策の強化を受けて、犯行グループの手口が、巧妙化・悪質化した結果、被害が増加したと思われま

す。特殊詐欺の手口を紹介致しますと、その内、振り込め詐欺が、

○オレオレ詐欺

親族や警察官等を装って電話をかけ、妊娠中絶費用や交通事故・不倫等の示談金や会社の横領金の補填等の名目で、金銭を騙し取る手口。

○架空請求詐欺

架空の民事訴訟による支払い命令または示談金や有料サイト等の未払い金名目で、金銭を騙し取る手口。

○融資保証金詐欺

架空の消費者金融業者名義を記載したダイレクトメール等を送付し、融資を求めて来た人に対し、融資の保証金等の名目で金銭を騙し取る手口。

○還付金等詐欺

年金事務所や官公庁の職員等を名乗って、年金や医療費等の還付に必要な手続きを装ってATMを操作させ、入金と思わせて実際は振り込み送金させて騙し取る手口です。

また、こういった振り込め詐欺の他に、被害者と面接して現金等を騙し取る「現金受取型」の詐欺手口もあります。

振り込め詐欺以外の特殊詐欺の手口で、昨年から極めて顕著な傾向として、証券会社や投資会社等複数の人物が現れて、利

殖感情を煽る、いわゆる「劇場型」の犯行形態が、この「現金受取型」で敢行されており、犯行地域が全国的な広がりを見せています。

この手口は、電話やダイレクトメール、パンフレット等により、未公開株、社員券、社債、外国通貨、土地使用権等の金融商品に関する購入・投資等の取引名目で、「必ず儲かる」等と勧誘し、第三者がこれを手に入れたいと切望している等の演出によって、被害者の利殖感情をこっとさら刺激して、金銭を騙し取る手口です。

さらに、この手口の中で、

○過去に詐欺や悪質商法の被害に遭った被害者に対して、「当時の損失を取り戻すことが出来るから」等と被害回復名目に金融商品の取引等を持ちかけて金銭を騙し取る手口。

○「パンフレットが送られてきた人だけに、その会社の金融商品を購入する権利がある」

等と称して、あたかもその商品に価値があるように思わせる上で、名義貸しで購入するよう持ちかけ、その後「名義貸しはインサイダー取引になるので違法だ」「金融庁の監査が入り困っている」「名義貸しのためトラブルになっている」等と称して、トラブル解決費用や訴訟費用等の名目で金銭を騙し取る手口等が増加しています。

四月に私が着任してすぐに、由良地区で、こういった利殖勧誘名目の詐欺と思われる電話を受けたご家庭がございました。

特殊詐欺の被害に遭った方の中には、「まさか私が騙されるとは思っていなかった」という方もおられますが、犯人は、被害者に出来るだけ考える時間を与えないように、そして誰にも相談できないように、言葉巧みに仕向けて、被害者の家族を思う気持ちや暮らしへの不安につけ込んで、金銭を騙し取るので

す。

私は、こういった悪質極まりない詐欺の犯人が100パーセント悪いのであって、被害者に落ち度があるとは思いません。

ただし、このような手口に騙されないためにも、自己防衛に努めて頂きたいと思います。

「風邪をひいた。携帯電話の電話番号が変わった」は一つの詐欺の手口です。

「必ず儲かる」「今後必ず価値が上がる」等、甘い話は世の中に存在しません。

執拗な勧誘の電話に対応するためには、電話番号を変更する、非通知電話番号を着信拒否する、留守番電話にする等の手段も有効ですし、特に、「必要ありません」ときっぱりと、はっきりと丁寧に断って下さい。はつきり断らないと執拗に勧誘してきます。

もしこういった詐欺手口の電話がかかってきたり、ダイレクトメール、パンフレット等が届

いたりした場合、すぐに警察へ連絡して下さい。

二点目は、「子どもの安全確保」についてです。

栗田小学校・幼稚園の通学バス運行が始まり、これまで以上に、子どもの交通安全に関心が高まり、これまで潜んでいた危険な箇所を見直す動きが由良地区で出てきました。

そういった道路設備等の見直しももちろん大切ですが、子どもにとって、車やバイク、自転車のスピードの出し過ぎや不注意等の運転、迷惑駐車・駐輪等の行為は、大人以上に危険です。子どもやお年寄りなど、交通弱者にとって通りやすい道路は、誰にとっても通りやすい道路です。

由良地区は、国道と旧道以外、速度・駐車規制等の道路標識がない道路がほとんどですが、一人一人が、自らの運転マナーに思いをはせ、見直すことが、安全なまちづくりにつながると思

います。

是非とも、安全・安心なまちづくりのためにも、ご協力のほどをお願い申し上げます。

最後に、私は民間企業での勤務経験後、「人のために働くことが実感できる職業に就きたい」と考え、警察官を拝命しました。

何者をも怖れず、怯まず、ひとえに国家と国民に奉仕することが警察官としての使命であり、警察官であることに誇りを持っていきます。

警察官の職務の遂行のためには、奇をてらう必要も、自己主張する必要もないと思っておりますので、どこまでも愚直に、由良地区の安寧秩序を守るため、職務に精励致しますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ちくと知っ得

住吉神社の舞堂

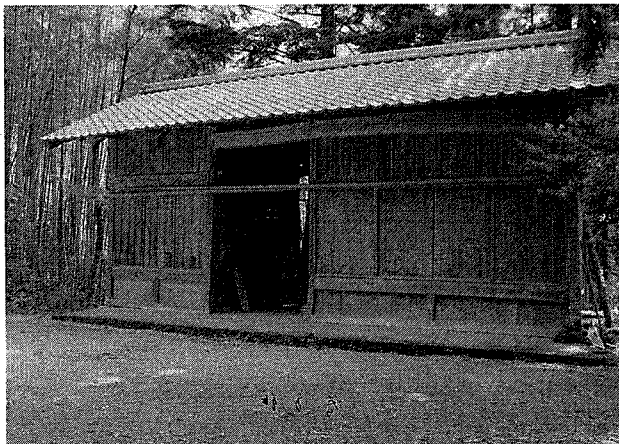
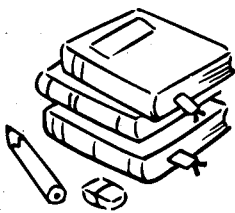
下石浦にある住吉神社は弘化三年(一八四六)に建立された。

祭神は、底筒之男命・中筒之男命・上筒之男命であるが参道を入ると立派な舞堂がある。

日常は床は壁に建て掛けてあり間を通り抜けて神社へ参拝するが催し物がある時は床を戻すと三間続きの広い舞台になる。

由良地区に残る唯一の建物ではないかと思う。

(飯澤登志朗)



境内側



参道側

編集後記

2013 (H25) 6月

小学校正門二宮金次郎側のソメイヨシノが少し膨らんできた三月二十三日、一四〇年間地区中央部に存在した由良小学校が永遠に消えていった。すごく寂しいし、子供の声が全く聞こえてこなくなった。時を示すチャイムも聞こえてこない。栗田へ通学している子どもたちは、すぐ子供同士で打ち解けて、仲良く元気で通学している。少し胸を撫でおろしている。閑話休題、四月二十九日は恒例の由良ヶ嶽登山の日、今年は多くの登山客で大いに賑わった。二三人の登山者のうち、最高齢は八十四歳の大先輩、若い人は自分で登り切った四歳の女子、好天に恵まれ「山の案内小屋」は「登山証明書」発行で大いに賑わいました。三重県、大阪府、高浜など遠隔地からも来られ、山の若葉を十分に楽しんでいただきました。(枝川)